

第2回朝来市総合計画審議会 グループ対話の内容

【A班】

■経済循環の中と外

- ・ 地元の地酒を扱う酒屋をやっているのは、「あの人が作っているものだから喜んで使おう」という関係性をみんなが持ち続けてくれたら良いと考えているから。高くても地元のお酒を選ぶという性分が朝来市にはあると思う。地域で循環する産業につながっていくのではないか。
- ・ 人口が減っていく中で、行政に頼らないで自分たちでやる市民自治はもちろん基本だが、市の行財政が賄えるのかが心配。外貨を獲得しないと持続できないのではないか。
- ・ 地域ファンドやふるさと納税など、これまでとは違うお金の流れがいるかもしれない。何かあったときに柔軟に変容し、生き残れるよう、財源を複数化しておくことが大切。

■能動的な幸せとありがとうの循環

- ・ 資料3の「幸せ」は能動的なニュアンスを表現しきれていないかもしれない。「ありがとうの言葉が双方向の幸せになるまち」、「ありがとうが循環するまち」などがイメージに近い。
- ・ 小さな子どもでもちょっとしたゴミ拾いなど役割があれば嬉しいし、それを見た大人も子どもから元気をもらえる。できる人ができることをやって、「自分は必要とされている、ここにいていいんだ!」と感じ、それが誇りになれば健康寿命も延びるのではないか。
- ・ お金持ちでも金銭的に厳しくても社会貢献活動で幸せになれる。お金だけじゃない価値があるという、価値観の転換だと思う。

■循環を生むコミュニティ規模への再編

- ・ 少子化で1クラスの学年が多くなり、クラブが作れないなどの弊害が出たり、逃げ場がないためいじめも発生したりしていると聞く。朝来市出身の子どもはアルバイト経験がないことがコンプレックスにもなっていると聞く。子どもの世界を広げるために、放課後は合同で活動するなど、子どもの成長の目線で考えるとイメージしやすいかもしれない。
- ・ 消防団の勧誘でも頭を悩ませている。以前は消防団の勧誘に行ったときに断られることが悩みだったが、最近は消防団員になれる年代の人がいないことが困っている。これまでのコミュニティの単位では、幸せの循環が起きにくくなっているのかもしれない。

【B班】

■「やりたい」ことにチャレンジできる

- ・まちづくりの目標の「やりたいができる」を、まちづくりの目標2～6が支えている状況が朝来らしい。
- ・チャレンジできるという事は、失敗しても大丈夫という意味もある。

■子ども達が輝いているまち

- ・大人も、子どもも一個人としての個性を大切に、輝ける、自己肯定感を持てるまち。
- ・「枠にあてはまらなくてもあなたは素晴らしい」(多様性を認め合う、個性を生かし合う)というのが朝来市の方向性だが、教育の現場は枠にはめる形になっているのではないか。
- ・小さなまちだからこそ枠にあてはめるのではなく、誰もが輝けるまち、輝ける教育になれば良いと思う。

■ASAGOiNG 人づくり、朝来らしい総合計画

- ・「ASAGOiNG 人」づくりができるような総合計画になれば良い。
- ・基本構想を見れば、朝来市の総合計画だと分かるような計画が良い。
- ・「朝来愛」など「朝来」という名前を言葉にも入れて行くのはどうか。
- ・現状のまちづくりの目標を見ると、他市町村の総合計画でも分からない。みんなが見て、朝来の総合計画だと分かる計画が良い。

■村は家族

- ・現状として、家の前の雪かきでも、若い人が出ているところと出てないところがある。8年後は空き家になるだろう家もたくさんある状況の中、今後向こう3軒両隣、地域で支え合って行くことがより一層大切になる。
- ・個人単位ではなく、村単位で考えていけるそんなまちだと安心して暮らせるのではないか。
- ・雪かきの方法など知らなかったが、近所のおじさんがやり方を教えてくれたりした。村(地域)が家族と言えるような、近所でコミュニケーションが取れる状況はすごく良い。

■普通の暮らしを送れるまち

- ・普段の生活(暮らし)が厳しい人を置き去りにしない意味でも、誰もが普通に自分らしく暮らせ、誰もが自分たちの望む暮らしを実現(仕事、転職など)できることが大切。
- ・普通に暮らせることが重要で、その先に朝来らしさや子ども環境がある。もう少し生活基盤の話があったほうが良いのではないか。
- ・自分で稼げる自立した暮らしができ、子どもを大学に行かせられるくらいの仕事があり、つながりの中でステップアップしながら個人が成長できることも大切。

■ウェルビーイングを実感できるまち朝来市（私たちの幸せとともにあるまちの幸せ）

- ・ ウェルビーイングとは、一人ひとりの精神的にも身体的にも社会的にも良い状態で、幸せを実感できる状態。
- ・ 一人ひとりのアクションの積み重ねでまちになる。自分だけでなく、誰かの幸せにもつながる。
- ・ 好きなものや興味は違って当たり前なので、ひとつの価値観で見るのではなく、私は「これが幸せ」と言える事で、共感も生み、それぞれの幸せが重なり合ってまち全体の幸せになるイメージが、朝来市らしさだと感じる。

■将来像について

- ・ 「まちの姿」だけを掲げるまちが多いが、「市民の気持ち・マインド」が表現されているのが朝来らしい。「まちの姿」をメインタイトルとし、「市民の気持ち・マインド」に記載している内容やまちづくりに大切にしたいことなどは、サブタイトルで記載してはどうか。
- ・ 「多様なやりたいことにチャレンジできる」や、「人と人がつながり合い」が将来像のキーワードになる。

【C班】

■農村地域としての良さ

- ・ 将来像として、朝来市が農村の先進地であってほしいと思う。「都市基盤」の表現でも言えることであるが、朝来市は都市なのか農村なのかなのかと考えたときに、「都市」を前面に押し出してしまうと若い人が「それなら都市に行けば良い」と思ってしまうのではないか。
- ・ 若い人の意識が都市ばかりに向かないように、農地や農村に関係した言葉を使った方が良いのではないか。いつも都市と農村でどちらが上かなどと優劣をつけられてしまう。そうではなく朝来市は農村地域なのだということを忘れずに、人口が少ない中でどう暮らしていくかを考えたい。
- ・ 農村地域である朝来らしさを大切にすることで、「朝来っておもしろいらしい」と市外の人に言われるようなまちになってほしい。生産性を上げることだけを重視するのではなく、切り捨てる部分もありつつ、新しい価値を大切にしていけるまちにしていきたい。
- ・ 今の朝来市民が自負や誇りを持てるような、農村なりに明るく輝いているまちになってほしい。病院や公共交通も整っている都市に憧れるが、朝来市としての誇りを根底に置いたら良いのではないか。
- ・ 「農村地としての基盤」という言葉をメインに据えるというよりは、都市部の都市基盤に憧れるのではなく、今ある朝来市の良さを実感し、誇りに思っ暮らしていけることが大切だということかと思う。自分が朝来市を創っているという実感が持てるまちや、朝来市らしさをとことん突き詰めたまちというニュアンスが強い。

■朝来市らしさをつくる対話

- ・ どの目標、どの内容でも対話が大切。発言する場所もなく意見も反映されないまちではなく、朝来市は自分が意見したり人の意見を聞いたりする場所がある、というまちの姿が8年後に実現するなら素敵だと思う。意見が反映されると市民に浸透すれば、自分たちの普段の暮らし方も変わる。
- ・ この審議会の議論の内容がどれだけ計画に盛り込まれるか分からないが、市民との対話を重ねることで、職員さんにとっての気づきや検討のプラスアルファになるだけでも大事。自分たちの意見が朝来市を創っていると実感できると、課題に対する取り組み方も変わると思う。
- ・ 自分の意見が反映されるようなまちに住みたいが、車に乗れないので生活しづらいなどの意見があるなら、そういった課題を自分たちで解決していけるとよい。課題は一つだけでなく複合的に重なっている。意見が出せない人は支援を受けられないという事態になっている側面もあるのではないか。
- ・ 自分の悩みや家庭の問題は朝来市の問題だと思っている。「塾がない」という問題は自分の家庭だけでなくまちの問題。今までいろんな場所に住んだが、朝来市ほどこんなに自分の意見を聞いてもらえる地域はなかったし、自分の意見を発言したり、まちの人と話し合ったりする場所がなかった。こういった朝来市の良さを大切にしたいし、行政の気持ちも対話を大切にしていける方向に向かってほしい。対話が命だと思っている。

■豊かな生き方を目指して

- ・一人ひとりが輝けるまちになれる土壌が朝来市にはあると思う。
- ・「恵まれた自然の中で多様な豊かな生き方を尊重するまち」という言葉が、自然との共生や対話ができる朝来市の土壌を踏まえると合っていると感じた。
- ・「豊かな生き方」とはどんなことか、その中身を考えたほうが良い。
- ・「朝来市は市民が主体的に考えていける」という将来像があっても良い。
- ・「豊かな生き方」ということは、SDGsの中でも重要な言葉だと思う。日本人に特に多いが、こういう生き方が望ましい、ほかの人の望みに従う、という妥協を積み重ねるような暮らし方ではなく、自分なりの価値感を持って暮らせるまちが良いのでは。

■わかりやすく伝える

- ・「健康（健幸）」という言葉が出ているが、「健康・幸福」などの方が分かりやすいのではないか。子どももまちの一員だという認識なら、意味がわかるような表現が良いのではないか。もしくは注釈でもつけたほうが良いかもしれない。
- ・朝来市に住み始めた当初は、陸橋が必要だとか新快速が止まって欲しいなどの気持ちがあったが、今はなくなった。良い意味で身の丈を大事にするということが大切。朝来市で暮らすことの真の幸せや本当の贅沢の意味を、子どもたちに伝えていくことも大切だと思う。
- ・大人は大人、子どもは子どもの役割がある。本当の価値を伝えられる大人が少ないので、大人たちも生涯学習や地域教育に関わって、朝来の良さや魅力を伝えられるようになった方が良くと思う。